

平成30年度 有料道路コンセッションの取組状況（概要）について

I. 事業報告

(1) 交通量

- 8路線全体の交通量は、前年同期比約4.3%増加
(6,765万台 (H29) →7,057万台 (H30))
- 特に中部国際空港連絡道路、衣浦豊田道路、名古屋瀬戸道路で好調な伸び

(2) 料金収入

- 8路線全体の料金収入は、前年同期比約4.1%増加
(16,774百万円 (H29) →17,462百万円 (H30))
- 特に中部国際空港連絡道路、衣浦豊田道路、名古屋瀬戸道路で好調な伸び
南知多道路は、ほぼ横這い

(3) 収支状況

- 計画上の収支構造として、運営権対価分割金を元利均等払いとしている点も踏まえ、約30年の期間全体で収支の採算を取る仕組みを採用。安定的な経営に向け、事業前半で収益をあげる想定
- H30年度の収支実績
 - ・ 公社の償還準備金繰入は26億円
 - ・ 愛知道路コンセッション株（以下「ARC」）は当期純利益2.8億円を計上

【評価】

- ・ 全8路線において、実績料金収入が公社の計画料金収入の6%を超えており、契約に基づき需要変動による調整を実施
- ・ 公社の償還準備金繰入は計画を上回る実績であり、償還は順調
- ・ 全8路線で公社の計画料金収入を上回る結果に加え、維持管理費削減等の効果等もあり、安定的な経営に向け利益を確保し、概ね計画どおり運営

II. 主な取組内容

(1) 通常時や災害時等における維持管理・運營業務

- 公社運営時と同様の管理水準、サービス水準を確保
- 不測の事態に対しても、公社と連携し迅速かつ適切に対応
例) 台風、逆走事故等への対応（写真右）



【台風被害応急復旧】

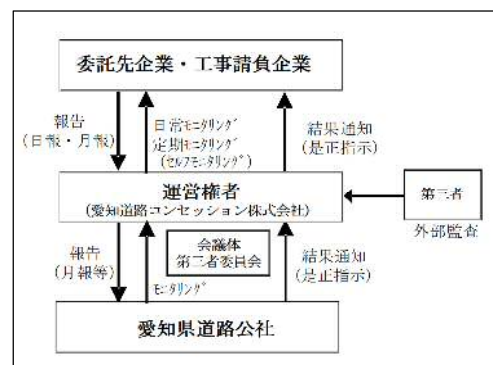


【事故発生時交通規制】

- H30年度より経営計画においてARCが設定したKPI〔重要管理指標〕と数値目標の達成

(2) モニタリングの実施による要求水準の確保

- 公社が要求する水準（要求水準書）の達成状況等を確認するため、モニタリングを実施
- 会議体や中立的な立場の第三者委員会による確認
- モニタリング結果を踏まえ、公社から改善措置を指示



【評価】

- ・業務全体で公社が要求する水準を充足しており、年間を通じて適切に業務を遂行
- ・維持業務で是正指導（レベル1）1件、是正勧告（レベル2）3件のペナルティポイントに該当する案件が発生したため、再発防止について嚴重に指導。
- ・施設点検及び修繕業務で是正指導（レベル1）1件のペナルティポイントに該当する案件が発生したため、再発防止について嚴重に指導。

（3）民間の創意工夫による取組

- モバイルカメラを活用したテレビ会議システムを導入
- コンクリートポンプ車を改良し、点検ロボットとして活用
- ドローンを活用し維持管理業務へ応用
- 維持管理情報のデジタル・クラウド・データベース化
- 新技術の実道実験（アクセラレートフィールド制度）
- 1日乗り放題チケットを発売し利用促進
- アセットマネジメントシステム構築（IS055001取得）
- 地元企業・団体等と連携した地域産品PRイベントの実施（観光PRイベント始め計15回）
- 大府・阿久比PAリニューアルオープン（H30.7.18）



【モバイルカメラの活用】

【評価】

- ・1日乗り放題チケットの利用者アンケートを実施し現状把握に努め、今後の利用促進及び利用者サービスの取組に向けて着実に展開
- ・地域産品PRイベントを積極的に実施し地域交流を深め、地域の活性化へ向けて着実に展開
- ・建物の設計・デザインを世界的建築家「隈研吾」氏が監修、また、食の分野において日本を代表する3人、パティシエ「辻口博啓」氏、イタリアンシェフ「奥田政行」氏、和食料理人「笠原将弘」氏の監修による地元食材を使ったメニューや土産品など、地域の魅力溢れる施設を展開



【1DAYチケットチラシ】

Ⅲ. 今後の取組予定

- 有料道路コンセッション事業に関する情報発信の強化（「見える化」）
 - ・事業報告を公社ホームページで公表
 - ・KPI(重要管理指標)と数値目標の達成に向けた取り組み
- 任意事業（提案内容）の具体化に向けた調整